

---

# カリエスリスク検査の臨床応用

= 導入後4年間の経験から =

---

1998.11.8 齋藤矯正歯科 齋藤健志



# 何を測定し、何がわかるのか？

Dentocult-SM

歯垢から唾液中に  
溶け出した唾液中  
のMS菌量

MS Level

Dentocult-LB

低pH培地でも成長  
できる発酵性口腔  
常在菌の量

食生活の乱れ

Dentobuff

刺激唾液がパッド  
上の酸を中和する  
能力

唾液の緩衝能

# Dentocult-SM(Strip Mutance) の注意事項

- あくまでも口腔内全体の平均値でしかない。
- 見落としている齶窩があれば値は下がらない。
- キシリトール摂取者のデータは、量より質をよく見ること。
- 抗生物質を服用中に測定すると値がゼロになる
- リステリンで洗口後、測定する値がゼロになる。
- 温度管理が悪く、37度を越えて培養するとゼロになる。
- 商品ロットによっては、ゼロが続くことがある(要返品)

# Dentocult-LBの注意事項

---

- 細菌による齲蝕発生のリスクを測定するものではない。
- 乳酸桿菌の選択培地ではない。
- 乳酸桿菌は、乳白色のコロニーである。
- 判定基準の院内統一が必要である。
- 乳酸菌摂取が多い食生活をしていれば値は下がらない。
- 見落としている齲窩があれば値は下がらない。

# Dentobuffの注意事項

---

- 変化を比較するには同じ時間帯に測定すること。
- 量は、発汗する程の運動後や服薬中は少なくなる。
- 誤差の最も大きな原因は、計測中に嚙むのをサボる事。
- 唾液のpH値を測定しているのでは無い。他の計測方法への変更は慎重に。
- 正確に5分後に判定しないと色が変化してしまう。

# 4年間続けてみて・・・

- 目に見えないものを視覚化・数値化することにより、DRとDHと患者さんが共通の言語を使い理解し合えるようになった。
- カリエス・リスク検査のみでは、リスク判定出来ない。
- カリエス・リスク検査よりも、従来の診査(例えば個々の歯の視診・X線検査・NEW2-TONEによる歯垢染色)の方が基本である。
- 食生活に関する指導をするには、歯科学的知識のみでなく、ヒトを考えた『食育』の知識が必要だと思う。